

越境的市民社会としての在独イスラーム諸団体

石川真作（東北学院大学）

本報告は、非西欧世界から西欧世界へ移動する人々が形成する市民社会の越境的動態の人類学的研究という枠組みにおいて、イスラーム世界からヨーロッパへの移民に着目して論じる。その際、報告者による現地調査に基づいて、ドイツ在住のトルコ系移民によって形成されるイスラーム関連の団体を、当事者による市民社会形成の一例として捉えたい。対象とするのは、トルコで多数を占めるスンナ派ムスリムによる諸団体、少数派であるアレヴィーの団体、イスラーム改革運動であるヒズメット運動関連の諸機関、である。

ヨーロッパ的近代社会の基盤をなす市民社会のイデオロギーは、自由主義的普遍性を標榜しながら、かつては性差や階級差、そして現在は「移民」に対する文化あるいはエスニシティを参照する排除の論理をはらんできた。そのジレンマを乗り越える試みとしての社会統合の議論はまた、一部で多文化主義を分断の論理として退けようとする。そのような視点からは、マイノリティの集団主義的な権利主張は、個人への平等な権利付与を前提とした市民社会の形成を阻害すると見なされてしまう。このような矛盾に対してキムリッカは、「エスニック文化権」の要求は何よりもまず参入への要求であり、自由主義において重要なことは集団間および集団内での平等を確実なものにすることであると述べ、マイノリティの権利保障を前提とした、多文化・多エスニック状況におけるシティズンシップの見直しを提唱した。本報告では、こうした議論を踏まえつつ、移民・マイノリティが形成する団体や集団的行為が、「集団内」の公共圏を形成するという視点を加えて事例紹介を行う。

ドイツにおけるスンナ派イスラーム団体は、いくつかの上部団体によって統括されている。もっと多くの団体を傘下に収めるのは、トルコの政府機関である宗務庁の海外機関である。他に、トルコのイスラーム主義政党や右派政党、あるいはイスラーム改革運動の影響下にある団体などがある。これらの団体の存在は、政党政治とイスラームの間に独特の距離感があるトルコ社会の特徴の反映であり、トルコの政治社会構造を持ち込み「並行社会」と呼ばれる移民の閉鎖的な社会空間を構築する営みと見なされた。一方で、「移民国家」となったドイツが社会統合を目指す局面では、これら諸団体は「ドイツのイスラーム」構築の主体として認知され、自らもその役割を果たそうとした。そのような意味でこれら諸団体の存在は、越境的な公共圏が生じる舞台装置であるといえる。

「少数派ムスリム」とされるアレヴィーは、歴史的には地域共同体を基盤とし、ある種の信仰形態を持つ人々の総称であった。トルコ共和国の建国後、近代化と都市化にともなって多くの人口が都市に流出し、さらにはヨーロッパへの労働移民に加わった。その間に一部は左翼運動に加わり、1980年のクーデターにともなって、事実上の亡命者としてヨーロッパにわたるなどして、ドイツを中心としたヨーロッパに一定のアレヴィー人口が形成された。1980年代終盤から組織化が進められ、1991年の「ドイツ・アレヴィー協会連盟」設立などを経て、ヨーロッパのマイノリティ集団として可視化する。ドイツだけでも100を超える「アレヴィー文化センター」が設立され、儀礼の再現などを行う一方、ドイツをはじめとするヨーロッパ社会へ向けて様々な発信が行われている。そこには、ヨーロッパで「マイノリティ」としての認知を得たうえで、トルコの社会空間に再参入する「戦略」が見て取れる。その経緯は自らの統一的な「文化」を創造／想像する公共圏の形成であるとともに、上位の公共空間に参入しようとする側面を持つものもある。

ヒズメット運動は、別名「ギュレン運動」とも呼ばれ、トルコの思想家フェトフッラー・ギュレンの思想を基盤にする。ヒズメット（Hizmet）とは、ギュレンの思想における重要なキーワードの一つであり、神と他者への奉仕と意味づけられる。こうした基盤から引き出されるギュレンの思想の現実的な特徴は、神への信仰と近代科学、そしてトルコ・ナショナリズムの合一を企図するものであり、一般に「健強なイスラーム運動」あるいは、「イスラーム改革運動」として理解される。ヒズメット運動を特徴づけるその他の要素は、越境的性格と教育への取り組みである。世界各地にヒズメット運動に関連した教育機関が設立されている。ドイツにおいては、構造的に教育的達成を得られにくい状況にあったムスリムの子どもたちに対して、教育機会の提供を行っている。

これらの事例を通じて、非西欧世界からの市民社会の越境的動態を検討したい。

＜参考文献＞

石川真作・渋谷努・山本須美子編『周縁から照射するEU社会—移民・マイノリティとシティズンシップの人類学—』世界思想社、2012。
キムリッカ・W. (角田猛之、石山文彦 山崎康仕 監訳)『多文化時代の市民権—マイノリティの権利と自由主義—』晃洋書房、1998。

キーワード 越境的市民社会 移民 ヨーロッパのイスラーム 公共圏 社会統合